

新年にあたって

日高農業改良普及センター 所長 山黒 良寛



新年、明けましておめでとございます。

生産者の皆様には、日頃より普及活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は、春先からの低温で、耕起作業の遅れや初期生育の停滞が見られ、出来秋に向けて先行きが不安視されるスタートとなりました。

しかし、その後の好天と適切な管理作業により、多くの作物で生育は回復し、総じて平年を上回る年となりました。

これもひとえに基本技術の励行、適正な肥培管理はもとより生産者皆様の高い営農技術の賜物と思っております。

品目別に見ますと水稲は移植開始がやや遅れはしましたが、移植後は分けつの発生が良好となり、開花期間が高温に経過したことから稔実歩合は平年より高くなりました。作況指数も104と高収量となり、一部で腹白米などの発生がみられましたが、高品質米の出荷量が多くなりました。

牧草の一番草では、収穫開始から終了まで順調に推移し、収量は平年並みで乾燥調整も順調に進み、良質な乾牧草が収穫され、サイレージ品質もやや良となりました。二番草は、高温と降雨で草丈は平年より少し長めとなったものの、やや徒長傾向で生育し、収穫作業も降雨の影響で停滞したことから収量は平年を若干下回りました。サイレージ用とうもろこしは、

耕起作業の遅れと低温の影響で出芽期は4日の遅れとなりました。その後生育は回復し、黄熟期は平年並で収穫期間は降雨が少なく、収穫作業は平年より5〜6日早く終了しました。草丈、稈長は平年より高く、登熟も順調で総重は平年並、乾物率はやや良でありまし



たが、雌穂重が少なく、TDN収量はやや不良となりました。

野菜では、主力品目であるミニトマトの初期生育の停滞から出荷開始が遅れました。その後、果実肥大と品質が良好となり価格も高値で取引され、取扱額が過去最高となる約7億5000万円を記録しました。

ほうれん草などの葉菜類は、4月〜5月は低温で推移したものの作業・生育は順調で、価格も高値で推移しました。夏場は高温により品質の低下が見られました。近年はこのような気象経過が多く、立ち枯れ病の発生が増加傾向にあります。

黒毛和牛では、素牛の出荷頭数が前年よりやや減少しましたが、素牛価格は高値安定で推移し、販売金額は目標金額を大きく上回りました。

地域農業を支える軽種馬は、景気回復の兆しが見える中でも依然厳しい状況にあります。市場での売却率は昨年に引き続き回復基調にあります。

また、ホッカイドウ競馬の発売金額も一昨年同様に実績を伸ばし、13年ぶりに140億円を超える高水準となりました。

しかし、PPP交渉の受結は年

を越し、新年早々に行われることが想定されますが、国際的な農業情勢から見ても日本農業は依然厳しい状況が続くことに間違いはありません。

当普及センターと致しましても引き続き、強い草づくりから軽種馬の構造改革を推進します。同時に野菜や黒毛和牛の良質生産に向けた振興を強化し、経営の複合化や転換など経営状況の見直しを図れる産地形成を目指し生産者・関係機関の皆様と共同しながら進めていきます。更に生産者と消費者が安心、安全な農畜産物でつながる六次産業化の推進やGAP認証に向けた活動支援などあらゆる場面を通して、生産者皆様の所得確保と地域振興に向けて活動して参ります。

また、担い手の確保・育成、法人の設立や運営支援を通し、生産者皆様のお力を借りながら地域に人が残る農業の構築を図っていきます。

どうか皆様におかれましても、今一度生産技術や経営の見直しをして頂き、本年が午年というまさに将来の展望を切り開く飛躍の年となりますことを祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。